



2023年6月15日

各位

会社名 株式会社ニッカトー
 代表者名 代表取締役社長 大西 宏司
 (コード番号：5367 東証プライム市場)
 問合せ先 常務取締役経理部 濱田 悦男
 (TEL：072-238-3641)

プライム市場の上場維持基準への適合状況

当社は、2021年11月1日に「東証プライム市場の上場維持基準への適合に向けた計画書」を提出し、その内容について公表いたしました。今般2023年3月31日時点におけるプライム市場の上場維持基準の適合状況および進捗について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の進捗および計画期間

当社の2023年3月31日時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況は、新中期経営計画【CONNCT25】に則り計画達成に向け鋭意取り組んでまいりましたが、適合計画書提出以降、【流通株式時価総額】及び【1日平均売買代金】について同基準に適合できておりません。

		株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率	1日平均売買代金	純資産額
適合 状況 及び 推移	2021年6月末 時点※1	—	76,285 単位	5.4 億円	62.8%	0.1 億円 (1,047 万円)	正
	2022年12月末 時点※2	—	—	—	—	0.1 億円 (1,446 万円)	正
	2023年3月末 時点※1	3,174 人	78,100 単位	4.3 億円	64.3%	0.1 億円※3 (1,513 万円)	正
上場維持基準		800 人	20,000 単位	10.0 億円	35%	0.2 億円	正
計画期間		○	○	2025年3月	○	2024年12月	○

※1 当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

※2 2022年12月末時点の当社の適合状況は、東証が売買代金をもとに算出を行ったものです。

※3 2023年3月末時点の1日平均売買代金は、2021年6月末の東証による算出方法にあわせて、株券等の分布状況等をもとに当社で算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合計画書に基づく進捗状況

(1) 中計経営計画「CONNECT25」業績推移

	2021年度	2022年度		2023年度計画		2024年度計画	
	実績	修正計画	実績	当初計画	修正計画	当初計画	修正計画
売上高 (百万円)	9,979	10,500	10,733	10,200	10,700	10,800	11,100
営業利益 (百万円)	972	1,000	1,102	1,030	1,130	1,200	1,240
経常利益 (百万円)	1,028	1,040	1,177	1,050	1,180	1,200	1,270
当期純利益 (百万円)	672	720	835	720	840	820	890
営業利益率	9.7%	9.5%	10.3%	10.1%	10.6%	11.1%	11.2%
配当	20円	21円	23円	21円	24円	21円	26円
配当性向	35.5%	—	32.9%	—	34.2%	35.0%	35.0%
ROE	5.8%	6.1%	6.9%	6.2%	6.9%	7.0%	7.0%
株価(期末)	540円	—	626円	—	—	—	—

「CONNECT25」の中期経営計画の進捗については、当初計画を上回る状況にありますが、残念ながら上場維持基準への適合は未達に終わっております。

(2) 資本コストおよび株価を意識した経営の実現

当社は、現在「CONNECT25」として2024年度を最終年度として、中期経営計画を推進中にあり、次の3つの軸「ENVIRONMENT」・「QUALITY」・「MANEGEMENT」に基づき、各種構造改革に取り組んでおります。その狙いは、収益力の更なる強化であり、2030年の開発目標SDG'sやその先の脱炭素社会の実現であり、その取組に関する情報の適切な開示や資本政策等による資本コストを上回る、エクイティ・スプレッドの改善にあります。

「PBRの分解式」

$$PBR = PER \times ROE = 1 + \frac{\text{エクイティ・スプレッド (ROE - 株主資本コスト)}}{\text{株主資本コスト - 成長率}}$$

① 「CONNECT25」の計画内容（2021年度～2024年度）（参照：別紙①）

- 経営ビジョン：「Reliable Company」時代が必要とする会社だけが成長する
- 存在意義：「独自素材の提供を通じて、脱炭素社会に貢献する」
- 中期経営計画における目標（最終年度2024年度の目標数値）
 - 売上高100億円以上
 - 営業利益率10%以上
 - ROE7%以上・目標8%
 - 株価1,300円、配当性向35%目処

②. 収益力の強化への具体的な取組み（参照：別紙②）

②-1 当社部材の付加価値創造

- ・ GHG排出量ゼロの製品開発、技術革新
- ・ 事業ポートフォリオの抜本的な見直し
- ・ 事業領域の拡大、再成長軌道の確保

②-2 生産性の抜本的な改善

- ・ 既成概念や固定観念からの脱却
- ・ ムダ・ムリ・ムラの排除
- ・ 製造リードタイムの削減

③. 財務戦略および資本政策の取組み（参照：別紙②）

- ・ 政策保有株の資本コストを踏まえた縮減
- ・ 安定的な配当および配当性向35%を目処とした株主還元
- ・ 自社株買いや株式分割等々の資本政策の検討
- ・ 人材育成や採用強化への人的資本投資の強化

④. 積極的なIR活動の実践（参照：別紙②、別紙③）

- ・ 情報開示の拡充による投資家との情報非対称性の解消
- ・ 短信や招集通知等の英文開示およびIRマテリアルの充実
- ・ ホームページおよびIRサイトの刷新および英文対応
- ・ 価値創造やサステナビリティへの取組発信強化

3. 上場維持基準への適合に向けた取組の実施状況及び評価

(1) 流通時価総額100億円不適合


- ・ 業績推移の通り、当初計画値を上回る状況ではありますが、株価への影響は限定的にあり、中期経営計画スタート時より改善傾向にあるものの、維持基準への適合には程遠い状況にあります。
- ・ 項番2の「資本コストおよび株価を意識した経営の実現に向けた対応について」に記載の通り、上場維持基準適合に向けて構造改革はじめとした各種取組は着実に実行してきておりますが、取締役会で審議の結果、IRにおける情報開示にはもう一段の工夫と取組が必要であるとの認識となりました。

(2) 1日平均売買代金0.1億円不適合

- ・ 該当の維持基準0.1億円不適合については、上記流通時価総額の不適合と同様であると認識しております。各種取組を着実に実行するとともに、当社の事をより認知していただくことも重要な要因であると考えております。ただし、該当基準も当初より改善傾向にあり、流通時価総額の改善に伴い、本基準も改善していくものと考えております。

4. 今後の課題と取組内容

(1) 当社認知度の向上

当社は、BtoB という事業内容であるとともに、非常にニッチな市場がベースであり、IRでも質問が多いことを踏まえ、当社および当社の事業内容の認知度を上げる必要があると考えております。現在様々なツールおよびコンテンツを活用し、当社およびロゴマーク  の認知度アップに努めております。既に新聞、広告等に掲載しておりますが、今まで以上に IR に取組んでまいります。

(2) 資本政策及び株主対応の具体的な取組

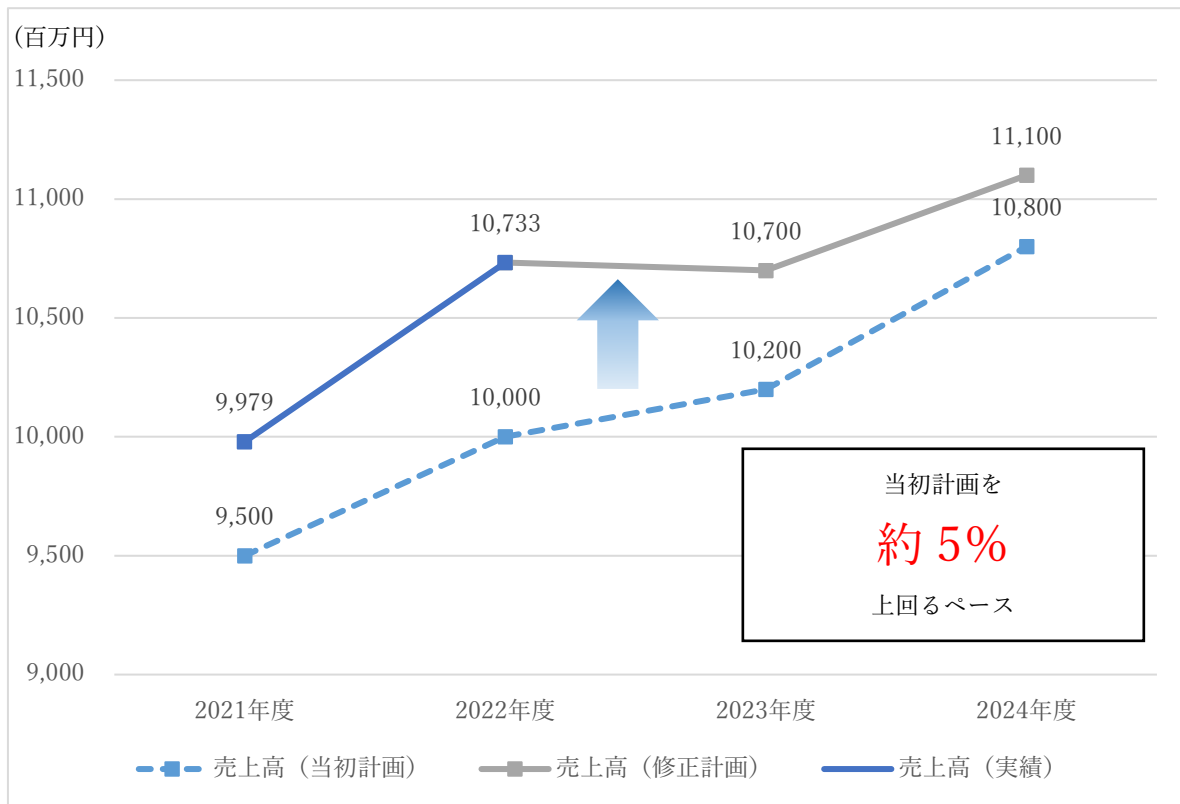
株主優待、株式分割、自己株買い、配当政策の見直し等あらゆる手段方法を検討し、資本政策や株主還元の見直しに努めていきたいと考えております。現在具体的な決定事項はございませんが、決定次第速やかに開示いたします。

以上

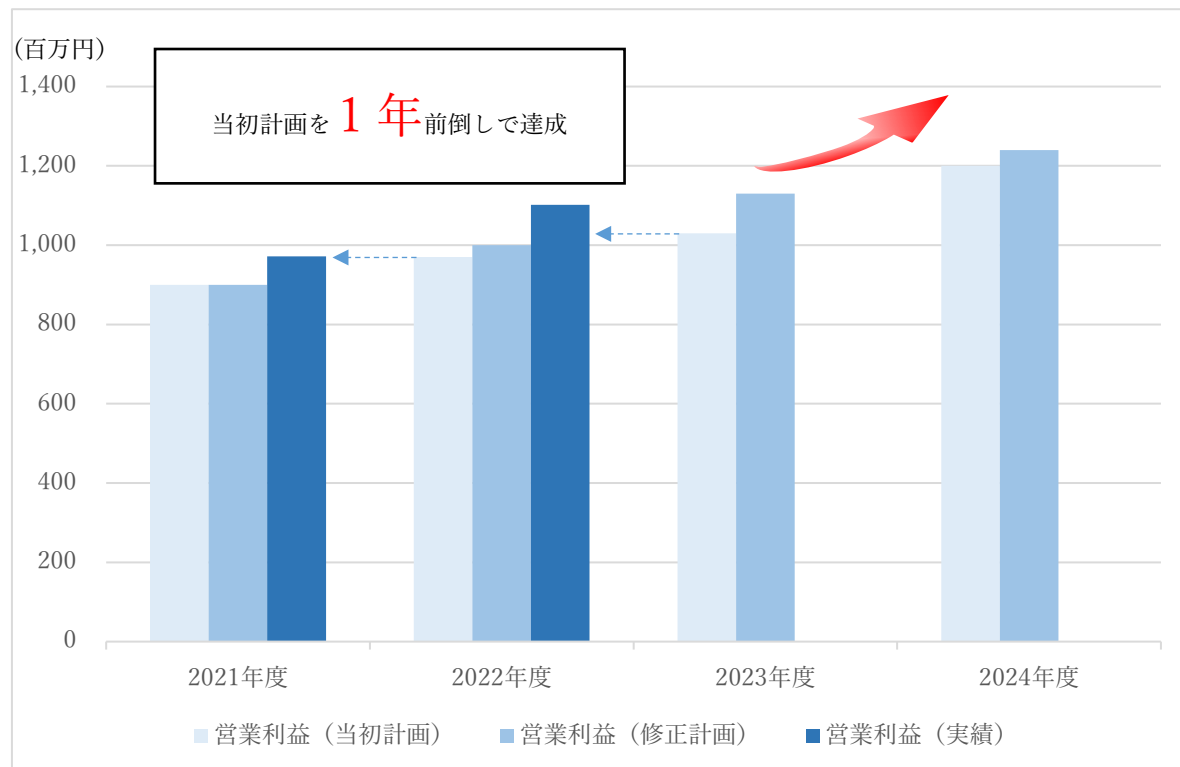
【別紙①】

○CONNECT25 計画の進捗状況について

・売上計画



・営業利益計画



【別紙②】

・CONNECT25 達成に向けた具体的取組み

取組内容	具体的な取り組み
収益力の強化への 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー、高品質な焼成プロセスの開発 ・エンジニアリング部門の構造改革の推進 ・取引先との協業に向けた取り組みの強化
生産性の抜本的な 改善	<ul style="list-style-type: none"> ・既成概念や固定観念からの脱却 ・製造プロセスにおけるムダ・ムリ・ムラの排除 ・歩留まり、不良率の改善による製造リードタイムの短縮
財務戦略 および 資本政策 の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・政策保有株式を抜本的に見直し 2020年度 13 銘柄 → 2022年度 7 銘柄 ・安定的な配当金および配当性向 35% 2020年度 8 円/34.8% 2021年度 20 円/35.5% 2022年度 23 円/32.9%
積極的な IR活動 の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・HP の刷新による情報開示の充実 ・招集通知・決算短信の英文開示の実施（2021年度 決算短信～） ・価値創造モデルの整理およびサステナビリティ情報開示の充実 ・知名度向上に向けた IR イベントへの出展および広告の充実

・ホームページトップページ

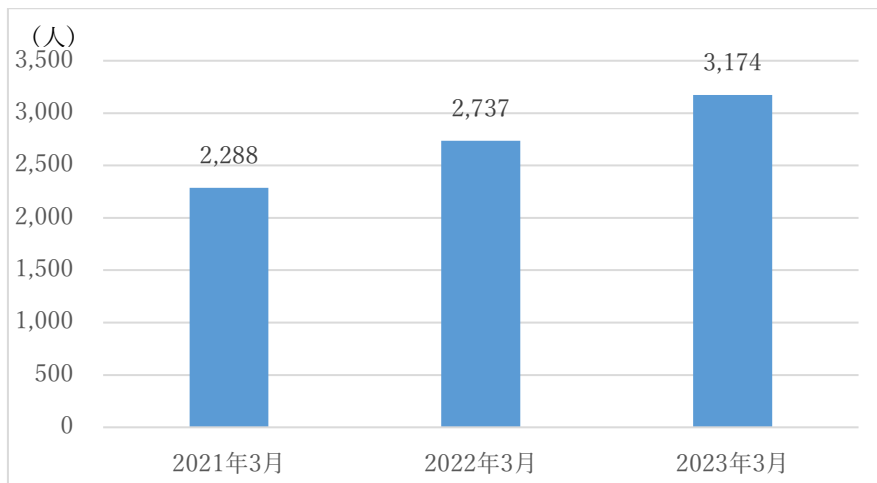


ホームページ URL : <https://nikkato.co.jp/>

・ニッカーの価値創造プロセス(HP 掲載)

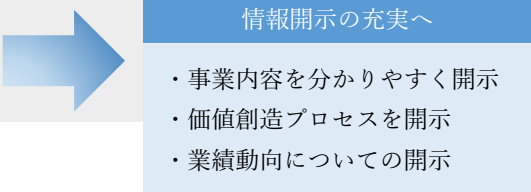


・株主数の推移



【別紙③】

・株主との対話の状況等について

	活動状況
担当者	<ul style="list-style-type: none">・ 総会后懇親会対応 : 全取締役・ 機関投資家対応 : 常務取締役経理部長 (CFO) 濱田悦男・ 一般株主・展示会対応: IR 担当者
株主の概要	<ul style="list-style-type: none">・ 国内機関投資家および投資助言会社: パッシブ運用がメイン・ 一般投資家: 中長期的な運用を視野
対話の主なテーマ や 株主の関心事項	<ul style="list-style-type: none">・ 事業内容及び業績動向に関する事項が大多数  <p>情報開示の充実へ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事業内容を分かりやすく開示・ 価値創造プロセスを開示・ 業績動向についての開示